TRANSFORM 高

2016. 2. 10
第 19 号
神港学園神港高等学校
平成27年度 教育目標
文 武 兼 備

マラソン大会

1月28日（木）に1・2年生によるマラソン大会が予定をされていましたが、インフルエンザが1年生に蔓延し始め、29日（金）までの学年閉鎖を余儀なくされ、2年生だけで開催されました。

ここ近年、本校の学校行事は天候に恵まれ続けており、当日も温かい晴天のもと、神戸総合運動公園のサブグランドをスタートしました。

コスモスの丘、冒険の国、陸上競技場前、地下鉄駅前を通り、サブグラウンドに帰る約2キロのコース2周で行われました。

男子がスタートし、直後に女子が、男女ともにゴールした後で、クラス対抗の駅伝競走が行われました。

ほとんどのものが、体育の授業の持久走の成果と、自分への挑戦を目指して、寒空のなか力走しました。

駅伝競走は、クラスで選抜されたメンバー4名が、クラスの名誉を懸けて激走を繰り広げました。（写真は男子スタート）

結果は、**男子の部**、1位村上州（神戸市立桃山台中）、2位木畑和弥（同上野中）、3位福田拓海（加古川市立中部中）、4位馬場健太（西宮市立学文中）、5位田畑友大（同浜脇中）、6位森仁寿（淡路市立津名中）、7位岡輝翼（明石市立高丘中）、8位中尾祐貴（小野市立小野南中）、**女子の部**、1位河合早紀（神戸市立渚中）、2位池田萌美（同塩屋中）、3位吉田あきら（同長田中）、4位上西捺美（同雲雀丘中）、5位樽本桜（西宮市立平木中）、6位櫻谷宙那（神戸市立垂水中）、7位西山祐紀（西宮市立山口中）、8位野村優花（明石市立大久保中）、**駅伝の部**、1位5組糸瀬翼（高砂市立宝殿中）、赤本悠斗（明石市立大久保中）、臼井亮矢（神戸市立小部中）、升田翔馬（播磨町立播磨南中）、2位2組吉田悠真（小野市立小野中）、黒岩勇樹（姫路市立朝日中）、日景宗太（尼崎市立園田中）、三宅浩史郎（神戸市立御影中）、3位3組笠井理揮（神戸市立小部中）、河野譲太（加古川市立加古川中）、田畑瑠偉（尼崎市立園田中）、山本陸空（姫路市立城山中）でした。（出走順）

サイエンス

1月19～22日に全学年の理科系の授業を使って、放射線測定の実験をしました。

東日本大震災から、放射線や放射性物質についての関心が高まっています。正しい知識を身につけるためと、化学、物理の学習を理解しやすくすることをねらいとして行われました。

α線が飛ぶのを見たり、放射線がどのような物質から出ているか、また許容被曝量や安全性についても学習しました。

水色の測定器は、関西原子力懇談会から、お借りした放射線検知器です。

ちょっと一言　インフルエンザは、医学の祖といわれる古代ギリシャの医者ヒポクラテスが紀元前 5 世紀に記した書物にあるらしい。16 世紀イタリアでは天体の動きの影響で流行すると迷信が広まり、イタリア語で「影響」をさす「インフルエンツァ」が語源となっている。日本では平安時代の「咳逆（しわぶき）」と呼ばれた言葉がインフルエンザを指すといわれている。古くは「スペインかぜ」といわれ、4000 万人が死亡した。スペインで感染が広がったのですが、第 1 次世界大戦中に米国から欧州に感染が広がり、参戦国では報道管制が敷かれたが、参戦していなかったスペインで事前情報がなく大量の感染者が出て、発生源国と誤解されたようです。